

【伴走支援のサマリ】

社会福祉法人そてつ会：IT基盤

産業分類

社員数*1

P.医療, 福祉

55

①ビジョン（背景と目的）

- ✓ 支援員は、スタッフルームに行かないとセンサーのアラート場所を特定できないため、瞬時の対応が難しく、非効率になっていた。
- ✓ そのため、携帯端末でセンサー情報を確認できるようにすることで、都度発生しているスタッフルームへの移動を削減することをめざした。

②取組（ソリューションの内容）

- ✓ センサーを集約させる施設環境の整備とセンサーの集約先の検討を行うこととした。
- ✓ 具体的には、Wi-Fiを施設全域に拡充させ、スマートフォンを用いて、監視カメラの映像や、眠りscanのアラートを確認できるようにした。
- ✓ また、赤外線センサーや人感センサー等のセンサーは、PHSに集約することで、スタッフルームへの移動の手間を削減するようにした。

③取組（課題や難所と、その対応）

- ✓ 当初の想定では、Wi-Fi環境で使用できるナースコールシステムの導入を検討していた。（ナースコールシステムでは、各センサーの情報がスマートフォンで確認できる仕組み）
- ✓ 一方で、施設の構造上、システムに必要な環境を整備することが難しく、当システムの導入を断念せざるをえなかった。
- ✓ 代替策として、センサー情報は、PHSに集約させ、他の周辺機器（監視カメラの映像や眠りscan等）の情報はスマートフォンに集約させることとした。

④得られた成果

- ✓ アラートの内容確認のため、スタッフルームに移動する頻度
導入後：3割削減
今後、PHSの連動や記録システムの刷新により、更なる移動回数の削減や業務の効率化を目指す。

*1：2021/3月時点 モデル候補企業の応募受付時情報より

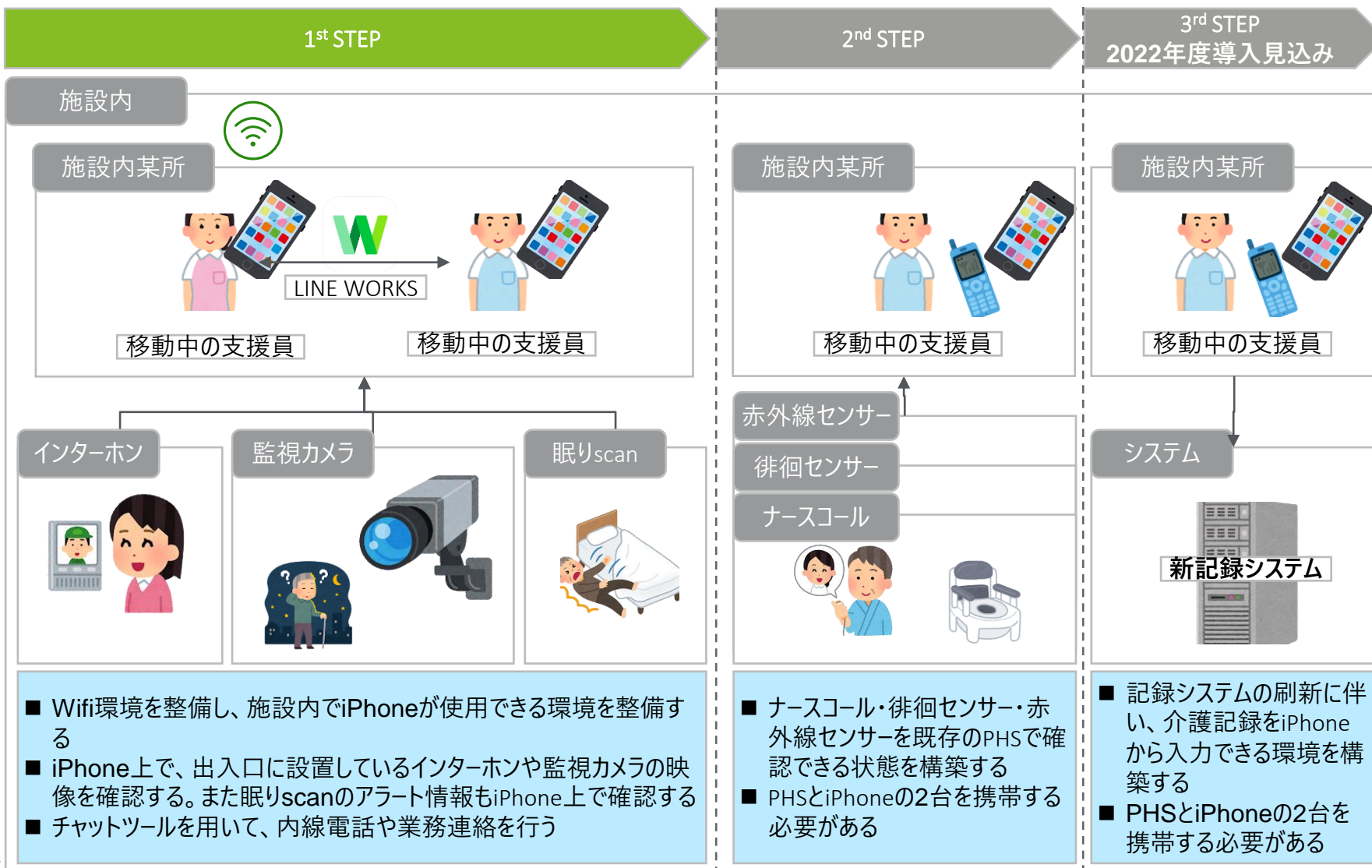
本事業では支援員が“どこでもアラートを確認できる環境”を整備することを検討対象とした

本事業の検討対象

課題	課題の具体内容	対策	優先順位
<p>① どこにいてもアラートを確認できる環境を整備できていない</p> <p>本事業での検討テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> スタッフルームに行かないとアラート場所を特定できないため、瞬時の対応が難しく、非効率になっている 	<p>場所を問わないアラート環境の整備</p>	<p>職員の業務負荷の軽減が優先度が高い</p>
<p>② シフト作成に時間を要しているため、シフト作成を効率的に行えていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 出勤や利用者のスケジュールが流動的なため、送迎などのシフト作成に時間を要している 	<p>シフト作成の簡略化</p>	<p>アラート環境の検討後に余力があれば検討する</p>

支援員が施設内のどこにいても、“アラートの確認”や“施設周辺の確認”、“介護記録の入力”ができる環境を目指す

Wi-Fi環境による情報集約の実現イメージ



今回の取組によって期待される費用対効果は、以下の通りである

申請時点での目標設定と効果測定結果

目標	実績	内容	現状
<input checked="" type="checkbox"/> 通信機器活用(DX)の成果	<p>某システムを用いて、業務改善実施。利用者支援を行う職員向けに取り扱い説明後、2週間の試験運用実施。対象職員へ使用状況についてアンケートを行う。通信機器活用効果を感じている職員は3割程度。一方で、システムを使用できていない職員がいる事も分かった為、該当職員に対して、システムの取り扱い説明会を行い、機器使用定着を目指す。※別紙アンケート参照</p> <p>今後の展望としては、PHS・ナースコールシステム工事後、センサー通知をPHS経由で受信する事で、スタッフルームへ確認に戻る回数もさらに減少する事が期待される。</p> <p>※wifi環境下で使用できるインターホンを導入し、スタッフルームへの確認回数の削減を図ってみたもののインターホン自体の音質が悪く、通話の遅延等も起きてしまっており、運用するには厳しい状況となってしまった。</p>	<p>生活支援員のスタッフルームへの訪問頻度減少したい。</p> <p>1時間当たり平均して5回通知がある。機器を導入する事で、スタッフルームへの確認の頻度5割減となる事を期待している。</p>	<p>徘徊センサーや防犯カメラ、インターホンがスタッフルームに通知がくるが、生活支援員はコール対応業務を行っている為、通知がある度に介助の手を止めて、確認を行っている</p>
<input type="checkbox"/> 業務コスト削減の成果			
<input checked="" type="checkbox"/> 働きがい向上の成果	<p>某システムを用いて、業務改善実施。利用者支援を行う職員向けに取り扱い説明後、2週間の試験運用実施。対象職員へ使用状況についてアンケートを行う。機器の導入後、業務中の通知確認等を含めた負担感が軽減したと感じた職員は3割程度。</p> <p>一方でシステムを使用できていない職員がいる事も分かった為、該当職員に対して、システムの取り扱い説明会を行い、機器使用定着を目指す。※別紙アンケート参照</p> <p>今後の展望としては、記録システムのアップデート後は、各自が携帯しているiPhoneで記録入力が可能となる事で、業務改善や負担感の軽減に繋がると期待している。</p>	<p>ナースコールシステムの導入により、生活支援員の働きやすさが向上したかの調査を行う。アンケート結果で、負担感の5割削減を期待している（アラート確認の手間が軽減されたか、夜間巡回時の負担が軽減されたか）</p>	<p>現状のアンケート結果 ※別紙参照</p>